

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈小・2〉	いわき市立	平第二	小学校
＜実施日＞	平成 28年 7月 8日(金)			
＜実践教科等＞	※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。			
1 理科	② 学級活動	3 総合的な学習の時間	4 その他()	
＜実践内容＞				
1 児童の実態	○ 放射線などの言葉は以前から耳にして、言葉としては知っていたが、内容までは深く理解していたとは言い難い。また、普段の生活において放射線などを意識して生活している児童は決して多いとは言えない。がんなどの様々な病気の原因が放射線ではないかという認識をしている児童もいる。そこで、この機会に放射線に対する正しい知識を身に付けさせるとともに、規則正しい生活の重要性に気付かせていきたい。			
2 授業の実践				
(1) 題材名	「健康的な生活をおくるために」			
(2) 学習活動				
①放射線について知っていることを振り返る。				
○今までの学習で、知っている放射線の情報を発表する。				
・放射線は体にとって危険なものである。				
・放射線と放射能の違いが分からないなどの意見が挙がった。				
※放射能は電球で例えると、光(放射線)を出す能力であり、放射線は出ている光であることを指導したところ、多くの児童が納得していた。				
②身の回りの放射線について考える。				
○身の回りにはどんな放射線があるか調べる。				
○日本では、自然から1年間受けている放射線の量は約1.5ミリシーベルトであることを伝えた。				
○自然にある放射線やエックス線などの放射線の量で、健康的な生活ができなくなるわけではないことを気づかせた。				
③健康的な生活のためにどうしたらよいか話し合う。				
○副読本「放射線について考えてみよう」を参考に友達と話し合い、がんなどの病気を起こす原因は色々あることに気づかせた。				
④学習のまとめをする。				
○健康な生活を送るために、どんなことに気をつけるかを考え、ワークシートに記入させた。				
＜成果＞				
○身の回りの放射線とそこから受ける放射線の量を副読本の資料を活用することで、健康な生活の妨げになるわけではないことを理解させることができた。				
○がんなどの病気を防ぐためには、必要以上に気にしすぎないことと、規則正しい生活習慣が大切であることを理解させることができた。				
＜課題＞				
●少数ではあるが、「放射線は気にしなくていい」と偏った結論に至った児童がいたので、今後さらに学習を深めていきたい。				
●教材研究に力を入れて、児童にとってより良い指導法を実践したり、教師自身が放射線に対してより正確な知識を身に付けたりしていくことが必要である。				
資料作成担当者職(教諭)氏名	(加藤 健)		学校電話番号(23-2413)	